

みとめつつも 従来取りあげられていた公式的な方法（実態調査を行い地域の生活の課題を把えこれにもとづいて目標を設定するという手続）だけでは、本当に現場の教育実践を力強く推進するような、教育の目標を導き出すことはできないのではないかと、確か従来の方によつても多少具体的なものにはなつた。併しそれは、あくまで稍具体的にされたという程度でしかなかつたのではないだろうか。然るに現場が地域の具体目標として期待したところのものは、固なり縣なりの目標にもとづいた日々の実践の途上において次々に起ってくる問題を、端的に解決に導くような教育内容や方法を示してくれる目標であり、それがためにはどうしても、従来の課題の上に更に一步深められた実践の課題が取り入れられなければならないのではないかと考えたわけである。

このような実践研究の結果、明らかにされた課題にもとづく教育の目標であつてこそ、今後の日々教育実践の作業仮設的な教育目標としての望ましい地域教育の目標が設定されるのではないかと考えるのである。

#### ④教育計画分析のための視点をより一層具体的に示すような目標。

目標が具体化され、特に実践の課題が明らかにされれば、現行の教育計画や単元を分析していくための視点を、より一層明確なものとするができると思つた。そうすることによつてこの目標設定の仕事に引きつづいてやっつけなければならぬと考へている、現行教育課程の分析検討のためのよりどころとなるようにしようとした。

#### ⑤教育活動の統一原理となるような目標。

従来の教育目標によつても、教育活動は統一性を与えられていた筈であり、確かに或る程度あたえられては おつた。しかし乍ら、従来の目標が かなり抽象的であり 教師や 教育担当者の一人一人によつて、しつかりと理解されていないため、必ずしも満足すべき状態になつてはいなかつた。そこでより一層教師に迫ってくるような具体的目標を設定し、教師の教育活動に統一性を与えたいと念願したわけである。

#### ⑥あいまいな表現をさけ我々の生活により多くつかわれていることばで表現する。

目標として表現する際、そのことばを日常より多く使っているやさしいことばで表現し、教師並びに教育関係者に、目標の意味する内容が明確にしかも端的に把えられるような目標にしたいと考へた。

※我々はこのような立場を常に念頭におきながら、目標設定の仕事をすすめていつたのであつたけれども、能力の不足と短い期間内で一応の結論を出さなければならなかつたこと等のために、多くの意に満たない点を残している。特に我々がひろい出さなければならぬと考へていた教育実践にもとづいた実践の課題を充分取り出すことができなかつたということについてここまであゆんで なお大きな心残りに感じている。今後 こうした課題を取り出すために必要と考へたことのできない研究の体制を確立し不備を補わなければならぬと考へている。

### (三) 目標設定の計画並びに経過

(1) 前述のような基本的態度にもとづいて目標設定の計画を立てた。

⊗準備 目標設定の推進母体となつて、その仕事をすすめていかなければならぬところの、所員、研究員並びに 指導主事及び事務局員（目標設定委員会事務局）相互の目標観を確立し、設定の手順等に対する理解を深めるために 三ヶ月程の 準備期間をもつた。その間、我々にとつて特に不足していた 社会科学の眼を養うために、この種の文献の研究に意を注ぐと

共に、教育基本法・学校教育法・学校教育の一般目標等に対する研究討議を行い、現代の日本の歴史的・社会的な課題・教育の理想・教育の機能・更には目標設定の手順に等を明らかにしようとした。

## (2) 目標設定の機構——目標設定委員会

教育目標の設定というようなことは、地方教育委員会の任務の一つであり、これを研究所において単独に設定するとうようなことは、さげなければならないと考えた。而して又設定された目標が、より地域化されて現場における教育実践の上に生かされるような目標であるためには、どうしても地域の社会人・教師並びに教育関係者等より多くの人々の参加を得てこれを設定する必要がある。従つて、最終的な段階においては教育委員会がこれを設定しなければならないにしても、目標草案までは教育委員会の構成員以外に教師・教育担当者、一般地域社会人等の参加を求めて目標設定委員会を構成し、仕事をすすめるべきであると考えた。

### ① 目標設定委員会の仕事。

(A) 地域社会の理解に必要な基礎資料を収集する。

(B) 資料と委員の知識と経験とから、地域の生活の課題を把握し、これを構造づける。

(C) この生活の課題としての巾広い社会的課題を教育の本質的な作用から、いかにえると人間を改造していくという世界から、これを人間の側におきかえて把握し、教育の課題を明らかにした。

(D) この教育課題から教育目標を設定する。

### ② 目標設定委員選定のための準備——目標設定委員選出委員会。

研究所、学識経験者、各種団体、学校関係の代表者によって目標設定委員選考委員会をもち、下記の基準によって巻末に記載されている設定委員を選定した。——選定された委員

### ③ 目標設定委員選定の基準

(A) 各職能の意見を代表する人

目標設定委員会の最も重要な仕事は地域社会の生活の課題を把握し、これを構造づけるという事であったため、特に広く、職能の異つた人々の間からその委員を選ぶ必要があつた。

(B) 経済的な各層の意見を代表する人。

前記の如く、生活の課題を明らかにするという立場に立つてこの基準が取りあげられた。

(C) 各種団体の意見を代表する人。

(D) 地域内の各地区の意見を代表する人。

(E) 性別、年齢層別の意見を代表する人。

### ④ 目標設定委員会の運営。

(A) 全体委員会。

目標設定委員全員を以つて構成し、目標設定に取りかかる前に、教育目標、並びに社会課題・教育課題についての全体的理解を深め、課題を把握し目標を設定するための仕事の計画を立てる。又専門分科会において明らかにされた生活の課題並びに教育の課題を再び全体的に検討する。

(B) 専門分科会

次の五つの社会機能別に専門委員会をもち、各分科会においてそれぞれの領域別に地域の生活課題を抽出検討し、教育課題を設定する。

- (a) 生産消費部会 (b) 交通・信運輸部会 (c) 保健娯楽部会 (d) 教養芸術・宗教部会  
(e) 保全政治部会

(C) 専門分科会代表委員会

専門分科会の代表者をもって構成し、各分科会において摘出された生活課題並びに教育課題の課題構造を明らかにし、これを生活領域別に整理統合する。

(a) 目標起草委員会。

さきを示された基本的な態度に基づいて、できるだけ生な言葉で教育課題に基づいて目標を起草する。

(b) 事務局。

資料の収集・整理・提示等の事務一般の仕事をする。

5) 経過

(A) 目標設定の基礎となる調査研究の経過・期間・事項

期 間 項 事	昭和26年度			昭和27年度			昭和28年度		
	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
1. 文献研究									
2. 新聞分析									
3. 与論調査Ⅰ…質問紙				—			—		
4. 与論調査Ⅱ…面接								—	
5. 地域の人々の世間話の調査									
6. 地域の人々の集会の際の調査									
7. 青年並びに婦人の意識調査							—		
8. 作文の分析									
9. 児童生徒の意識調査									
10. 知能テスト並びに学力テスト		—							
11. 保健体育に関する調査									
12. 社会性(民主的性格)の調査									
13. 中小企業者の意識形成過程の調査									
14. ガイダンス・ニーズの調査									
15. 地域の実態調査									
16. 卒業生の動向調査			—				—		

B、目標設定の仕事をすすめた経過

教育目標を設定するための基礎的な調査研究の仕事は前述のようにして研究所発足当初からはじめられたわけであるが、この仕事に直接的にとりかかったのは昭和28年7月、教育の一般目標設定準備会を開催したときからである。その後の仕事の経過は次のようなものである。

昭和28年4月 教育の一般目標設定準備会

28年7月 教育の一般目標設定委員全体会議 (第一回)

28年8月 教育の一般目標設定委員全体会議 (第二回)

- 28年8月～12月 専門分科会を連日開催  
 29年1月～2月 専門分科会代表者会議（二回）  
 29年2月 目標起草委員会（二回）  
 29年2月 教育の一般目標設定委員会全体会議（第三回）  
 ここで設定された教育目標案を委員会に提示  
 29年2月 教育目標検討のための教育委員会（三回）  
 教育目標設定終了後昭和9年3月発表会を行った。

#### (四) 生活課題の抽出……………（第一次調査）

##### (1) 生活課題抽出の意義

目標設定するに当り、それが人々に明確なものとして意識されるためには、さきにも述べたように目標が生きて生活している我々の生活の課題との関係においてみちびき出されなければならないという点について問題はないであろう。ただ我々のとった立場、地域の生活の課題から導くという点については変りはないけれども、方法的に従来と多少異っているために問題がないわけではなかった。即ち我々のとった方法はこの地域がどんな地域として発展すべきであるのか、地域の経済的、社会的建設の課題を明らかにし、このような課題から直接的に教育の目標を設定するというのではなく、このような地域の経済的、社会的な課題を、更に人間を改造することによって、解決しようという教育の世界の課題即ち教育課題におきかえてこれを把えなおし、地域の教育目標を設定しようとするものであった。このような我々の立場は、従来とられておったような、地域の経済的、社会的な課題の解決に教育がいきなり参加するという形に比べれば、生活の課題が直接的に教育の目標の中に取り入れられてこないために、何となく生ぬるく感ぜられると共に、生活の課題を把えるということの意義が、ともすれば軽視されそうにも思われる。併し、考えてみれば又このような教育の課題を人々に迫るものとして把えるためには、それこそ生々しい現実の生活の課題をもとにした教育の課題が把えられこれにもとづいて目標が設定されなければならないであろう。こうして我々は、地域の教育目標を設定するための仕事の第一段階として、この地域の生活の課題を明らかにするための調査である。

##### (2) 生活課題を明かにする

###### (1) 文献研究並びに社会調査

社会調査は、今までも各地・各学校・各教育研究所等多く行われて調査を参考にしつつ、更に従来行われていた調査に最も欠けていると思われる調査前の文献研究に力をそそぎ、われわれとしてはわれわれなりの調査方法を定めこれを行った。紙数の関係上、調査経過の全体について述べるができないので主として我々が参考にした文献や資料と、これにもとづいて明らかにした生活の課題の分類のわくとを示しておく。

##### 主として社会調査の内容や方法に関する文献

大田 堯	教育計画のための社会実態調査	
戸田貞三・甲田和衛	社会調査の方法	昭和24年
石山 修平		昭和25年
福 武 直	日本農村の社会的性格	昭和25年
飯塚 浩二	日本の精神的風土	昭和27年
牧 野 巽	教育社会学の課題	昭和27年
大河内 一男編	戦後社会の実態分析	昭和25年